



鱈コミ

CS通信（テスト配信3）

政府の緊急事態宣言解除を受け、ようやく当町の学校にも子どもたちの屈託のない笑顔が戻ってきたようです。TV画面にも久しぶりに会った友達と笑いながら話す様子が映し出されていましたが、改めて学校本来の姿を見て、保護者や地域の皆さんも取り敢えずは安堵しているのではないのでしょうか。世間では第二波の到来を危惧していますが、三密にならないよう常に感染防止を意識しながら日常生活を送ることに心掛けたいものです。地元の子どもの元気な姿こそ、それを取り囲む大人や地域を活気づけてくれる大きな要素となり得ます。

コロナウイルス対策でオンライン授業、テレワーク等で離れた所でもいろいろ情報共有はできましたが、やはり学校現場では登校しての授業を通して、先生と子どもたち、子どもたち同士が直接意見交換しながら進めていくのが一番です。コロナの影響で休校措置を取った関係上、学習の遅れを取り戻すために今年の夏休みは多少短くなるかと思いますが、その分、きちんとした学習内容の確認や理解につながることであります。いずれにせよ、何事もプラス思考で理解していくことが大事ですね。（記：社教推進DC 木村）

《 学校に元気がもどる！「元気が一番、元気があれば何でもできる！」 》



舞戸小（今年度の児童会テーマ）「夢 キラキラ 舞戸小」



舞戸小（青空の下、元気に校庭を走り回る子どもたち）



西海小（休み時間、友達と笑顔でシーソー遊び）



西海小（久しぶりのブランコに歓声）



鱈中（体育の授業で久しぶりのランニング）



鱈中（特別教室での授業の一コマ）